

磐田市医療・介護連携に係る課題抽出及び解決策検討部会 (みんなでつながるしっぺいプロジェクト) 会議報告

1. 概要（経緯）

医療・介護連携に係る課題抽出・解決策検討のプロセスを通じ、超高齢社会において市民生活を支えるための磐田市版「在宅医療・救急医療および介護の有機的な連携体制」を検討する。

第1回 平成30年6月12日 キックオフ、本会の目的を共有しスケジュールを確認した

多職種グループワーク 平成30年7月26日 在宅医療・救急医療連携に係る課題を抽出

第2回 平成30年9月25日 グループワークでの課題を取り纏め、進め方を確認した

多職種グループワーク 平成30年11月29日 課題の共有と解決策を出し合った

第3回 平成31年1月29日 グループワークでの協議を踏まえ、いくつかの課題と解決策から、取り組む優先順位を検討した

2. 優先的に取り組む項目

重要性と実現可能性を考慮し次の項目を優先して検討していくこととした。

大項目1：救急搬送時の情報ツールが整っていない

①課題：搬送までに時間がかかる

②課題：救急キットの活用

大項目2：意思決定支援

③課題：意思決定支援

④課題：DNAR

3. 次年度以降の進め方

平成31年4月以降、みんなでつながるしっぺいプロジェクトで個別の具体策を整理していく。(スケジュール案) 多職種グループワークで共有・意見集約をし、引き続き多職種との共通認識を持って進めていく(過程重視)

(1月29日開催) 検討部会において、話し合いたいこと

- ◎課題の中から取り組むべき優先順位をつける (実現可能性・重要性)
- ① 大項目の優先順位をつける
 - ② 取り組みの具体策の順位をつける
(グループワークで出た意見を参考に、付箋と模造紙を使いKJ法で整理)

多職種グループワークにおいて検討した解決策の抜粋

※意見が多数出ていた順

大項目1：救急搬送時の情報ツールが整っていない

- ①課題：搬送までに時間がかかる
 - ・情報を伝えるための統一の書式を作成 (病歴やキーパーソンの連絡先、意思など)
- ②課題：救急キットの活用
 - ・最低限の情報を入れてもらう (保険証、診察券コピーなど)
 - ・様式の更新 (DNARがあれば。)
 - ・情報の更新 (介護保険申請時、薬の変更時、担当者会議時、など)

大項目2：意思決定支援 (DNAR 含む)

- ③課題：意思決定支援
- ④課題：DNAR
 - ・若いころ、元気なころから学べる、話し合える環境、地域づくり
 - ・エンディングノートなど、意思を記しておく様式

大項目3：医療・介護情報共有

- ⑤課題：平時からの情報共有
 - ・ケース検討などを通じた、それぞれの役割の理解

大項目4：システム化・環境整備

- ⑥課題：相互理解の不足
 - ・シズケア*かけはしの活用
 - ・お互いの理解を促す研修などの機会
- ⑦課題：救急車への同乗
 - ・情報提供の仕方

大項目5：専門職の相互理解

- ⑧課題：救急要請の判断が難しい
 - ・相談できるところがあるとよい

救急患者情報提供書（救急車による搬送時）

この情報提供書は救急隊員に必要な医学的情報を伝え、病院への搬送を円滑に行うためのものです。ただし、これは必要最小限の情報なので、できましたらさらに詳しい紹介状（診療情報提供書）も病院にお送りください。

（ファックスするか直接患者さんや救急隊に渡してください。）

※下記情報を記載し、救急隊員へ渡してください。

患者氏名・フリガナ	性別	生年月日	年齢
	男 女	M・T・S・H 年 月 日	歳

搬送先病院	紹介科および医師名（紹介済みの場合）	搬送先病院 I D 番号
1. 磐田市立総合病院 平日 FAX38-5549 休日・夜間 FAX38-5046 2. その他（ ）	1. 診療科名 科 2. 医師名	1. なし 2 不明 ()

医師・看護師同乗	家族同乗	照会先病診連携室（等）への連絡
有・無	有・無	済・未

バイタルサインおよび測定時間：平成 年 月 日 午前・午後 時 分頃					
意識レベル (JCS)	呼吸数 (回/分)	脈拍数 (回/分)	血圧 (mmHg)	体温 (°C)	S pO2 (%)

↑別紙参照し JCS で記入（例：Ⅲ－300）

診断名 もしくは 症候・徴候など	
現病歴	
既往歴 なし・あり	
内服中の薬 なし・あり	(お薬手帳参照・お薬手帳なし)
搬送時における 処置 なし・あり	1. 酸素吸入 (経鼻 〇/分、マスク 〇/分) 2. 点滴 (留置針 G 、点滴内容) 3. その他 ()

1. 追加の紹介状はありません。
2. 詳細は別紙紹介状を参照
(どちらかを○で囲んでください)

紹介元医療機関名
住所
電話番号
FAX 番号
紹介医氏名

救急搬送患者連絡票

この連絡票は救急隊員に必要な医学的情報を伝え、病院への搬送を円滑に行うためのものです。ただしこれは必要最小限の情報なので、改めて詳しい紹介状（診療情報提供書）も病院にFAXでお送りください。

※下記情報を記載し、救急隊員へ渡してください。なお1部コピーを取り控えとして保存しておいてください。

フリガナ		性別	生年月日		年齢
患者氏名		男 女	M・T・S・H 年 月 日		歳
搬送先病院	紹介科および医師名（紹介済みの場合）		搬送先病院ID番号		
1.磐田市立総合病院 2.その他（ ）	1.診療科名 科 2.医師名		1.なし 2.不明 ()		
医師・看護師・介護職同乗	家族同乗		磐田病院救急事務への連絡		
有・無	有・無		済・未		
バイタルサインおよび測定時間：		年 月 日	午前・午後	時	分頃
意識レベル（JCS）	呼吸数（回/分）	脈拍数（回/分）	血圧（mmHg）	体温（℃）	SpO2（%）

必須項目（●のついた項目は依頼元に応じて必須項目ですが、それ以外も可能な範囲で記入ください）					
医療機関	その他				
●	●	診断名または症状など			
●	●	現病歴 (救急依頼理由)			
●		既往歴 なし・あり			
●	●	内服中の薬 なし・あり	(お薬手帳参照・お薬手帳なし)		
●		搬送時における処置 なし・あり	1.酸素吸入（経鼻 〇/分、マスク 〇/分） 2.点滴（留置針 G、点滴内容） 3.その他（ ）		
●	●	キーパーソン	① _____（続柄： ）連絡先： _____ ② _____（続柄： ）連絡先： _____		
●	●	本人の意思	DNAR あり・なし・不明 意思確認日：平成 年 月 日 (本人の意思の代弁者：)		
	●	居宅・ケアマネジャー氏名			
	●	主治医名			

紹介元医療機関名または施設名・事業所名

住所

電話番号

FAX番号

紹介医・者氏名

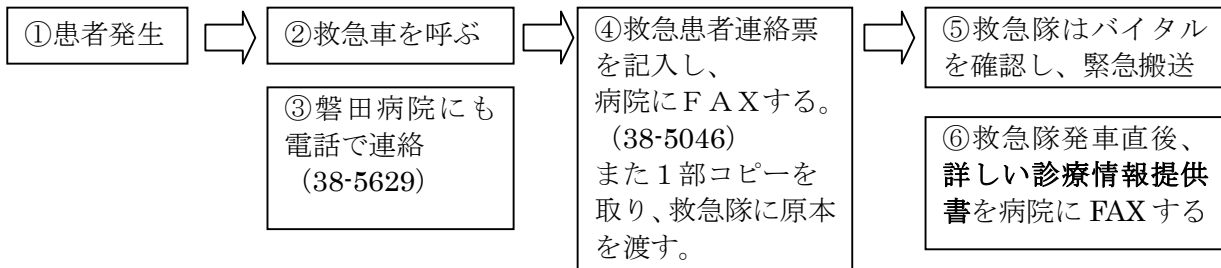
救急患者連絡票（救急車による搬送時）の運用

（ 磐田市立総合病院へ患者さんを救急車にて搬送する場合の手順）

≪医療機関・特別養護老人ホーム・老人保健施設から転院搬送となった場合≫

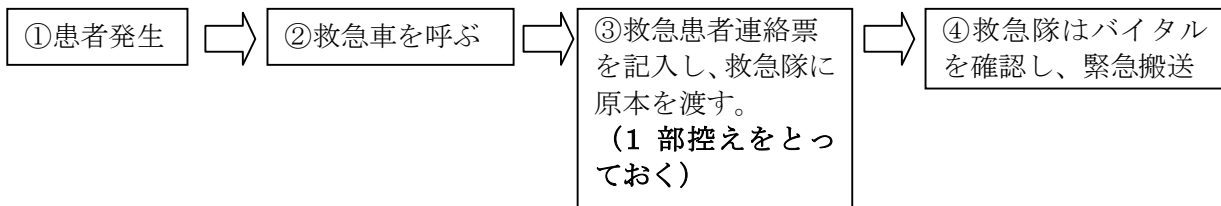
- ① 病院に緊急搬送が必要な患者さんが発生した場合、②救急車を要請するとともに、③磐田病院病救急事務（直通電話 0538-38-5629）に電話をして、どのような患者さんを搬送依頼したか連絡をしてください。④救急患者連絡票を作成し、1部診療所用の控えとしてコピーを取り、磐田病院へも F A X（0538-38-5046）をしてください。この連絡票には封をしないで、原本を救急隊員に渡してください。
- ⑤救急隊は救急車発車直前も可及的速やかにバイタルサインをチェックし、磐田病院救急医と連絡を取りながら処置を行い、病院に搬送する事になります。 ⑥**なお詳しい診療情報提供書を至急磐田病院へF A Xでお送りください。**

※特別養護老人ホームでは**医師不在**の休日・祝日・夜間帯の診療情報提供書は不要です。



≪上記以外の場合（訪問先の在宅・グループホーム・サ高住・ケアハウスなど）≫

- ① 病院に緊急搬送が必要な患者さんが発生した場合、②救急車を要請。③救急患者連絡票を作成し、この連絡票には封をしないで、原本を救急隊員に渡してください。（控えは、カーボン紙、コピー、スマホなどで写真を撮るなどして残してください）
- ④救急隊は救急車発車直前も可及的速やかにバイタルサインをチェックし、磐田病院救急医と連絡を取りながら処置を行い、病院に搬送する事になります。



※なお詳しい診療情報提供書が作成できれば、至急磐田病院に FAX (38-5046) にお送りください。
※救急隊に渡した連絡票は、救急隊が必要事項を書き写し、原本は磐田病院救急に渡してください。

参考資料

意識レベルについて

※患者さんの状態について下表を参照し、意識レベルの欄に記入してください。

JCS (Japan Coma Scale)

III. 刺激に対して覚醒しない状態	300. 痛み刺激に反応しない。 200. 痛み刺激に反応して、手足を動かしたり顔をしかめたりする。 100. 痛み刺激に対して、払いのける運動をする。
II. 刺激がなくなると眠り込む状態	30. 呼びかけを繰り返すとかろうじて開眼する。 20. 簡単な命令に応じる。 10. 合目的な運動をするし、言葉も出るが、間違いが多い。
I. 刺激がなくても覚醒している状態	3. 自分の名前、生年月日が言えない。 2. 見当識障害がある。 1. 清明とはいえない。 0. 清明。

この他、R (不穏)・I (糞便[失禁](#))・A (自発性喪失) などの付加情報をつけて、JCS III-200-Iなどと表す。

病院名： **八王子消防病院** ※おおむね1年以内に受診歴のある病院

かかりつけの病院

住所： **八王子**市・区 **上野町33**

電話番号：

もしもの時に医師に伝えたい事があれば「□」の中にチェックして下さい

- できるだけ救命、延命をしてほしい
- 苦痛をやわらげる処置なら希望する
- なるべく自然な状態で見守ってほしい
- その他（ ）

伝えたいことがある方は、該当するものを**□**にするか、その他の欄に希望することをご記入ください。
なるべく複数の連絡先をご記入いただき、電話は連絡がつかやすい番号をご記入ください。

◇緊急連絡先

氏名	続柄	住所	電話番号
八王子 六男	子	八王子市●●●町1-1-1	080-1111-●●●●
日野 五子	子	日野市●●●町1-2-3	090-0000-●●●●

作成日	平成 24 年 8 月 10 日	更新日①	平成 27 年 4 月 1 日
更新日②	平成 年 月 日	更新日③	平成 年 月 日
更新日④	平成 年 月 日	更新日⑤	平成 年 月 日

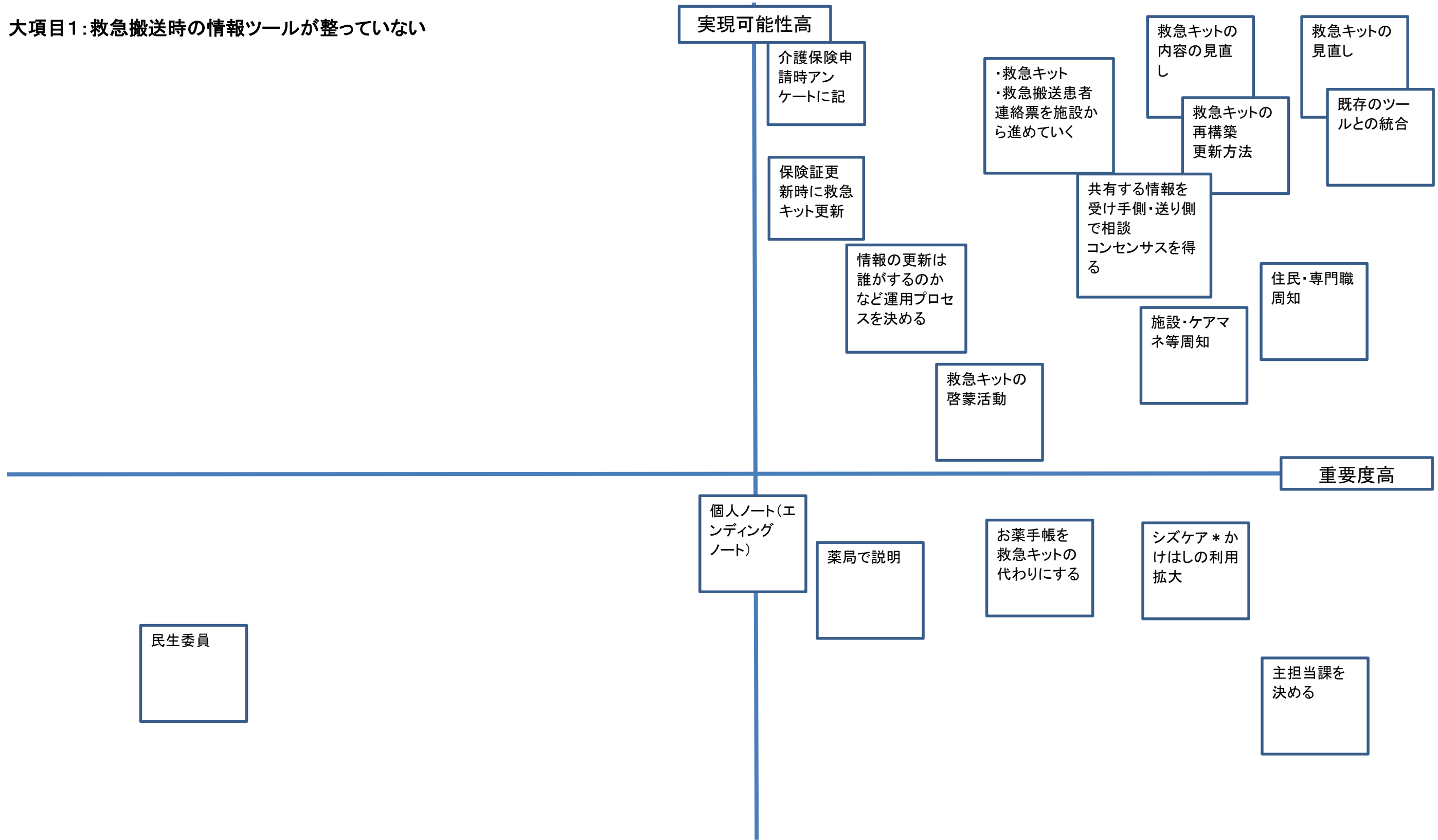
みんなでつながるしっぺいプロジェクト スケジュール(案)

	協議会	検討部会	グループワーク(GW)
	平成 30 年度 2 回開催	平成 30 年度 3 回開催	平成 30 年度 2 回開催
2018 年 4 月			
5 月			
6 月		◎キックオフ、グループワークの進め方を検討する(6/12)	
7 月	○検討部会での検討の方向性・スケジュールを審議する(7/4)		◎情報の共有および同職種 GW で課題の抽出を行う(情報の共有は、救急搬送の実態および医療機能の分化と連携について行う) 7/26
8 月			
9 月		◎課題を取り纏める GW で話し合う課題について検討(9/25)	
10 月			
11 月			◎多職種 GW により課題の共有と解決策の検討を行う(管理的立場) 11/29
12 月			
2019 年 1 月		◎最終的に課題を取り纏め、優先順位を検討(1/29)	
2 月	○課題抽出の取り纏め結果および検討する優先順位を評価する(2/20)		
3 月			
4 月		◎グループワークの進め方を検討する スケジュールの確認	
5 月			◎解決策の具体的な検討を行う(5/23or24)
6 月	○解決策案を評価する	◎解決策を取り纏め	
7 月			
8 月		◎協議会の評価を反映し、具体的方法を協議	
9 月	○解決策の評価と試行運用の決定を行う	◎試行運用の方法を検討する	○試行運用を周知し、情報共有を図る(9/27)
10 月			
11 月			
12 月		◎試行運用の中間評価を行う	○試行運用の中間報告を行い、情報共有を図る(12/4or5or12or18)
2020 年 1 月			
2 月		◎試行運用の最終評価および解決策の最終検討を行う	
3 月	○試行運用の評価および解決策の決定を行う		

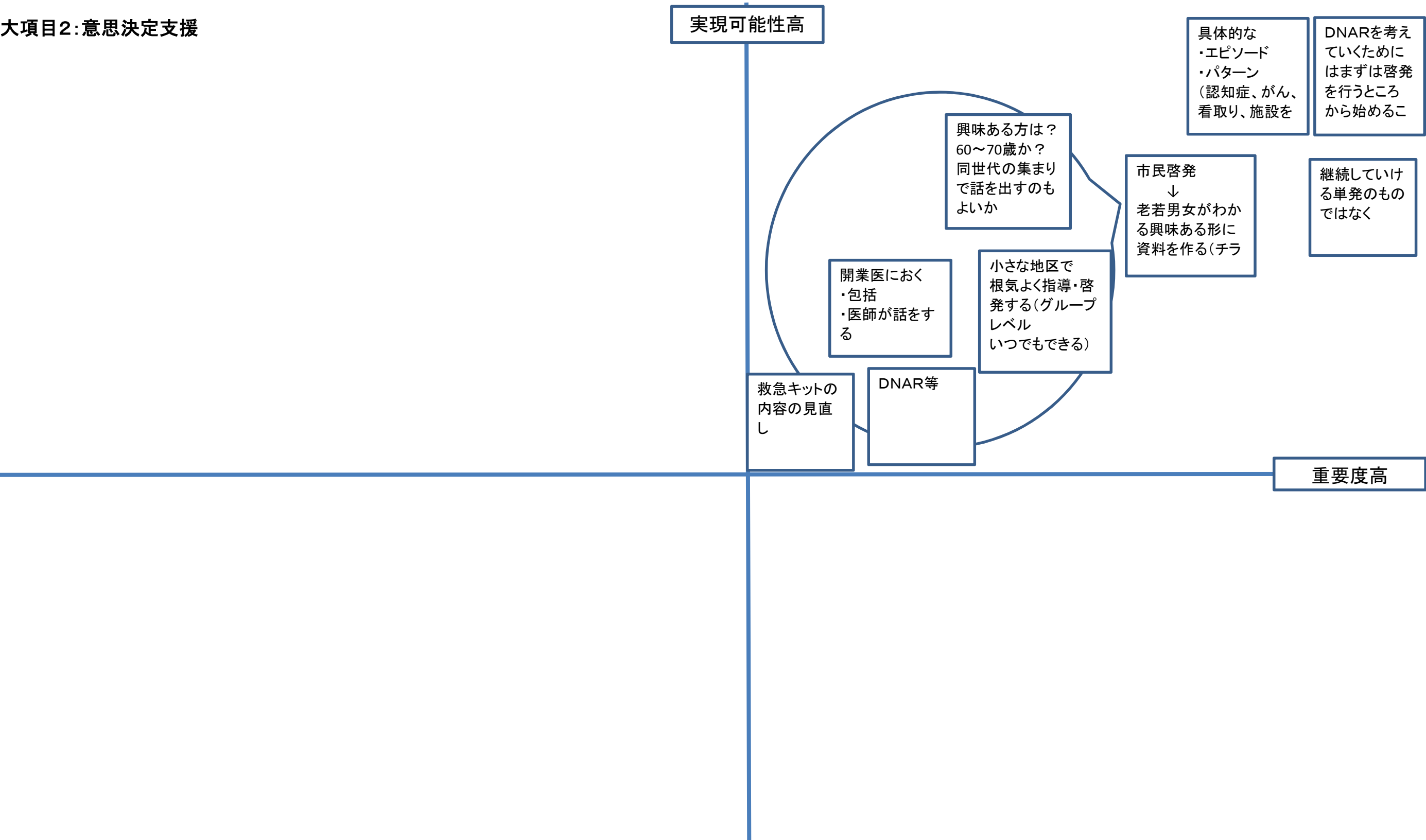
2020年度に関しては、2019年度の状況に応じて修正する

2020年4月		◎解決策の市内展開・周知等について検討する 課題の再整理を行う	
5月	○解決策の展開、課題の再整理について評価する		
6月			◎解決策の周知と、再整理した課題の解決策について検討する
7月			
8月		◎再整理された課題の解決策を取り纏める 解決策について再検討する	
9月	○再検討された解決策を評価する		
10月			
11月		◎グループワークの進め方を検討する	◎解決策の具体的な検討と、運用中の解決策への意見を出す。
12月			
2021年1月		◎グループワークの結果を取り纏め、次の解決策の方向性の検討をする。	
2月	○方向性の評価		
3月			

大項目1:救急搬送時の情報ツールが整っていない



大項目2:意思決定支援



磐田市在宅医療・介護連携推進事業 取り組み状況と今後の推進

- ◆=これまでやってきたこと（今後も継続）
- ★=30年度取り組み事業
- ◎=31年度の更なる取り組み事業

■地域の医療・介護資源の把握

地域の医療機関や介護事業所等の住所、情報等を把握し、これまでに関係機関が把握している情報と合わせて、リスト化しマップを作成、活用する。

<1> いわた医療・介護ガイドブックの発行

- ◆ いわた医療介護ガイドブック 2016年版の発行
 - ・平成 28 年 4 月に全戸配布
 - ・市ホームページに「医療・介護施設ガイド」として検索機能付で開設、情報更新

<2> 静岡県在宅医療・介護連携情報システム「シズケア＊かけはし」の登録推進

- ◆ システムについての説明会を開催
 - ・平成 28 年度、県医師会の協力を得て 3 回開催
 - ・平成 30 年度、市内事業者、県医師会の協力を得て 4 回開催
- ★ 磐田市在宅医療介護連携情報システム登録事業費補助金の創設
 - ・平成 30 年度システム登録料のうち、1/2 を補助する。

■在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行う。

<3> 磐田市在宅医療介護連携推進協議会

- ◆ 磐田市在宅医療介護連携推進協議会の開催
 - 年 3 回

<4> 在宅医療や救急医療・介護の連携に係る課題抽出のための検討部会の設置

- ★ 検討部会の開催
 - 医療・介護関係者に磐田市消防本部を含めた検討部会の開催

■切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と在宅介護が一体的に提供される体制の構築に向けて、必要な具体的取組を企画・立案する。

<5> 地域の課題把握

- ◆ 看護職の需要調査、訪問診療、訪問歯科診療、訪問栄養指導等の状況把握
- ◆ 訪問体制づくりの検討

■医療・介護関係者の情報共有の支援

情報共有の手順等を含めたツールを整備するなど、地域の医療・介護関係者間の情報共有を支援する。

<6> 地域の状況把握

- ◆ 磐田市・森町の病院、訪問看護ステーションの代表者がつながる会における、看護サマリーの検討
- ◆ 磐田市立総合病院と磐田ケアマネ連絡会の入退院時の情報共有についての話し合い

■在宅医療・介護連携に関する相談支援

地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口を設置し、医療・介護関係者及び地域包括支援センター等からの相談を行う。また、必要に応じて、退院の際、地域の医療関係者と介護関係者の連携できるようにつなげ、患者・利用者又は家族の要望を踏まえて、地域の医療機関や介護事業所を紹介する。さらに、相談窓口の役割が関係者等に明確に理解されるよう、「在宅医療・介護連携支援センター」等の名称を設定し、周知する。

<7> 磐田市在宅医療介護連携支援相談窓口

- ◆ 平成 28 年度に健康増進課内に医療・介護専門職のための相談窓口を設置
平成 28 年度：28 件 平成 29 年度：20 件 平成 30 年度：7 件（2.7 現在）

■医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を推進するために、多職種でのグループワーク等の研修を行う。また、必要に応じ、相互の理解を深めるため、医療関係者に介護に関する研修会を、介護関係者に医療に関する研修会を開催する。

<8> 顔の見える関係づくり

- ◆ 多職種連携のための事業所間交流研修（平成 30 年度まで）

<9> お互いの専門性や役割を理解することと地域の課題抽出

- ◆ 多職種グループワーク研修：事例検討と地域の課題抽出
- ★ 救急医療についての課題抽出・対応策検討のためのグループワーク研修

<10> 実際の連携をスムーズにするための検討会

- ◆ 磐田市立総合病院と健康増進課共催の磐田市の医療・介護関係者のための事例検討会

■地域住民への普及啓発

在宅医療や介護に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の必要性について周知、啓発をする。

<11> 最期までどう生きるかを考える機会

- ◆ 地域包括ケアを考えるシンポジウムの開催（平成 30 年度まで）

<12> 地域での普及啓発事業

- ★ 交流センターでの普及啓発事業
磐田市医師会の協力を得て、交流センターで在宅医療やかかりつけ医の講演を行う
- ◎ 交流センター等での普及啓発事業（各地域包括支援センターに委託予定）

<13> 普及啓発のための媒体の作成

- ◎ パンフレットの作成